単元の中で『問い』をもちながら，自ら学びを開いていく子どもの姿を目指した実践

河　合　晋　司

1. はじめに～「問い」を立てるということ～

「変化に適応するのみならず，自らが自立して主体的に社会に関わり，人間ならではの新たな価値を創造し，将来を創り出すことができるようになるべきであり，そのためには，予測不能な状況の中で問題の核心を把握し，自ら問いを立ててその解決を目指し，多様な人々と協働しながら，様々な資源を組み合わせて解決に導いていく力が重要となる。」（教育振興基本計画 平成 30 年 6 月）

ここで言われているように，これから待ち受ける激動の時代を，豊かに生き，未来を開拓する多様な資質・能力が今子どもたちに求められている。

どのような学習であっても，ただ「答え」を求めて学びを進めていくのではなく，「問い」を探しながら様々な事象と出会い，その解決のために，試行錯誤する。そして，学習課題に対して子どもたち一人ひとりが「問い」を立てることで，子どもたちは単元の中で，これまでの学びを礎としながら自分の学びを調整し，そして振り返りながら学び続ける姿が現れる。また，「問い」を解決するために粘り強く学びに向かう姿が育まれる。そして，友だちと共に学び合いながら新たな価値を創造していく。子どもたちが「問い」をもちながら学ぶことには，そういった効果があるのではないかという仮説のもと，実践を行っていった。

2. 実践 「伝記を読んで，自分の生き方について考えよう ～あの人との夢の対談～」（5 年生　2019.12 ～ 2020.1 実践）

本単元では，河田惠昭作『百年後のふるさとを守る』（光村図書 5 年下）を扱うと共に，生徒自らが選んだ伝記を中心に，学習を進めていった。これまでに身につけてきた，本文の内容を，要旨を捉えて短くまとめる

力や，自分の考えを持ちながら文章を読み進める力を活用し，伝記を読み，その人物の生き様と自分の考えや思いと比較したり関連付けたりしながら書物を読む力をつけていくことをねらいとしている。

1）学習課題

学習課題は以下のように設定した。

> この単元では，偉人の言動から自分の考えや生き方を見つめ直す学習をします。
> 伝記からその人物の人生や人格を表す言葉を選び，自分の生き方や考え方と関わらせながら，その人物との対談記事「人物の扉」を作ります。

学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）「C 読むこと（1）オ 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを広げること。」を指導事項として捉え，「C 読むこと（2）イ 詩や物語，伝記などを読み，内容を説明したり，自分の生き方などについて考えたことを伝えあったりする活動。」を念頭に置き，学習課題を設定した。

2）言語活動

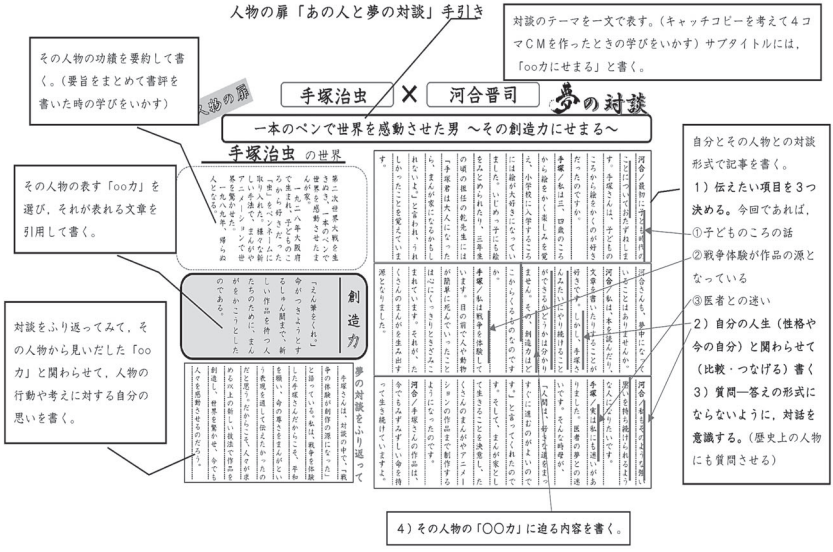
言語活動を考えるにあたって，前述した学習指導要領の「自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする」ということをどのように表現することが望ましいのか，と思案を重ねた。ただ，作文のような形で表現してもおそらく「～さんのようになりたいです。」といった，通り一遍な言葉が並ぶだけではないか，と考えた。それでは，深い学びにつながらない。また，より子どもたちが前のめりになって，「やってみたい！」と思えるような言語活動はないかと，思案していた。同じ学年の教員や国語科の教員と教材研究をしていく中で，「偉人との対談」という言語活動を着想した。偉人との対談記事を書くことで，自分の生き方や考え方と自然と関わらせることができるであろうし，何より，偉人と子どもたちとの対談記事がどのようなものになるのか，非常に楽しみにも思えた。

また，朝日新聞（2019 年 2 月 11 日，朝刊）の記事にあった「人物の扉」という特集も参考にした。そこには，詩人で作家の石牟礼道子の生きざまを「○○力」で表す欄があった。それが，子どもたちの語彙を増やすきっかけにもなるのではないかと考えた。そしてこれを含む言語活動，「人物の扉～あの人との夢の対談～」については，国語科内で単元計画を協議している際に，その手法を用いることを共通理解した。[1]

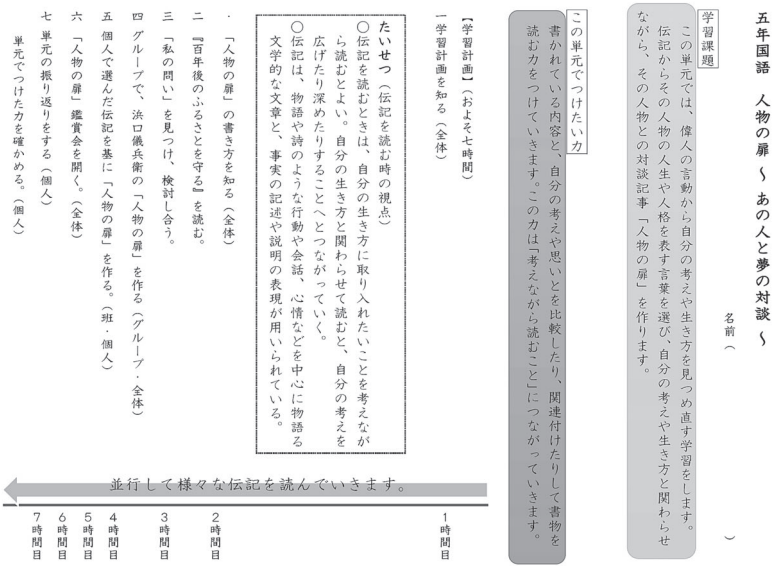
子どもたちにはまず，単元のはじまりをスライドで伝えた。そこには，これからの単元で大切にしてほしい事や，「私の問い」（一人ひとりがもつ問い）をたてる時に役立ちそうな言葉を意図的に散りばめておいた。そして，言語活動のモデルと共に手引きを付け加え（図 1），子どもたちと共に，この単元で身に付けたい力，この単元で願う姿を，学習課題にそって伝えていった。

3）単元計画

単元計画（図 2）には教師が子どもたちに願う姿を明確に示し，子ども



（図 1　言語活動の手引き）



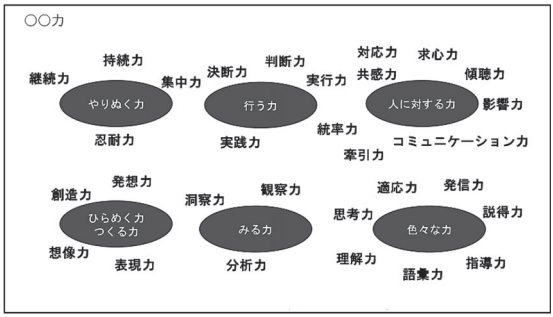
（図２　単元計画）

単元	人物の扉～あの人との夢の対談～					
B	観点	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等			主体的に学習に取り組む態度
	学習の過程		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	
	学習計画をたてる	【文や文章】文章の種類とその特徴について理解している。				
	問いをたてる					学習課題に寄り添った，学びがいのある問いを選ぼうとしている。
	グループで共同して対談記事を書く	【語彙】思考に関わる語句の量を増やし，文章の中で使うとともに，語句と語句との関係，語句の構成や変化について理解し，語彙を豊かにしている。		【題材の設定，情報の収集，内容の検討】「伝記」から，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を関係付けたりして，伝えたいことを明確にしている。 【考えの形成】自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。		わたしの問いの解決に向けて，粘り強く学習課題に向かって取り組んでいる。
	自分で選んだ伝記で対談記事を書く				【考えの形成】文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめている。	
	交流				【共有】文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げている。	
	ふり返り	【読書】読書が，自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。				単元で学んだこと，わたしの問いについて，そしてこの単元で学んだことをどのように広げていきたいかを意識している。

（図３　単元の評価表）
※学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）の文言を基に作成

たちと共有する。より自覚的に学びを捉え，その姿へとどれだけ近づいているかという指標にもなるそれに加えて，評価基準表（図 3）を配布し自分の学びの到達度を客観的に捉えようとしながら，自らの学びを調整し粘り強く単元をすすめていくための手立てとした。

4）語彙の学習



（図４　○○力 一覧）

人物の扉を作成する際，「○○力」を 1 つのキーワードとして作成していった。単元の学習とは別に 1 時間「私がほしい『○○力』」と題して，この「○○力」についての学習を行った。まず子どもたちが知りえる「○○力」を学習班（4 人グループ）で挙げ，全体で共有していった。決断力や影響力といった言葉や，「女子力」といった現代の言葉も挙げられた。さらに教師が提示したいくつかの「○○力」を含めて，似た意味に分類していった。辞書や類語辞典を開きながら，色々に仲間分けをしていった。そして自分が身に着けたい「○○力」を選び，その理由を互いに伝え合った。

この学習の中で「○○力」の一覧（図 4）を提示し，単元の中での語彙の広がりにつながる手立てとした。

このように，子どもたちに獲得させたい語彙を意識しながら単元をすすめていくことで，子どもたちは少し背伸びをして表現するようになる。この「少しの背伸び」をさせて表現することが新たな語彙を獲得し，知らない語彙から知っている語彙へ。そして，使える語彙へと昇華していくことにつながる。

5）「私の問い」を立てる

本学級ではこれまで，いくつかの単元で，学習課題に対する問いを立て，

学び方を経験している。例えば，「4年生に伝えるための海浜学習活動報告書を作ろう」という単元では，教師が設定した5つの「問い」から選択させて学習を進めていった。

1．4年生に伝えるために，どのような表現がよいか。
2．「事実」と「考え」を区別して書くと，どのような効果があるか。
3．活動報告書を作成するために，大切なことはなにか。
4．普段の作文と，活動報告書の違いは何か。
5．オリジナルの問い

そして単元の終末には，自分が立てた「問い」に対する振り返りには次のような記述があった。

子どもの振り返りより

「問い」:「事実」と「考え」を区別して書くと，どのような効果があるか。

学習課題に向けて学びながら，私の問いを解決することができました。Dさんの文章を読んでいて「～だ」「～だと思う」の文末で気がつきました。区別して書くことで，読み手にとって分かりやすくなり，「なるほど」と思ったり「すごい」と思ったりする，というのが私の答えです。ここで学んだことを，活動報告書以外の文章で使ったりして，読み手に分かりやすい文章を作りたいです。

このように，問いを選び，学びを進めていく経験があるからこそ，他の単元において今度は自ら問いを立てて学んでいくことができるようになっていった。

本単元では，まず第1時で単元計画や単元の概要を知り，第2時では『百年後のふるさとを守る』の全体を読み，浜口儀兵衛の功績についてまとめていった。

そして，この時間に立てた問いをもとに，4人グループで「浜口儀兵衛との対談記事」を作成していった。

グループ内での話し合いでは，教科書の本文を見ながらそして，自分たちで立てた問いを確認しながら進めていくことができていた。自ら立てた問いがあるからこそ，対談の中で伝えたいことが明確となりそれぞ

れが視点をもって学びに向かうことができていた。

6）教材の中に閉じられていた「私の問い」

改めて，各グループで出来上がった「人物の扉」と子どもたちの私の問いの一覧（図5）を見合わせながら考えた。確かに，一人ひとりが問いをもち，自分たちの力で文章を読み，問いを解決するために表現をしていた。しかし，第3時で立てた問いは教材の中で閉じてしまっていた。つまり，教材の中に子どもはいたが，単元の中に子どもはいなかったのである。「なぜ～なのか」「どうして～なのか」という，教材文に対する問題探しで終始してしまい，学習課題やその先にある言語活動を意識して問いを立てることができていなかった。このまま軌道修正することなく学習を進めていけば，子どもたちはまた同じように自らが選んだ伝記で「なぜ～なのか」「どうして～なのか」型の問いを立てるだろうし，それではこの単元で身に付けたい力には到底たどり着かないと考えた。

そこで，当初の学習計画からもう一時間付け加え，問いを見直す時間を設けた。第三時で立て問いと学習課題をつなげて考え直し，そして，自分が選んだ伝記と関わらせながら新たな問いを立てていこうと，子どもたちに

人物の扉～あの人と夢の対談～ 私の問い一覧①	
1	儀兵衛はなぜ材料費も人々の賃金も，全部自分で出そうとしたのか。
2	儀兵衛は村人たちを自分のお金を出してまで助けたかったのはなぜか。
3	儀兵衛はどうして，自分のお金を使い堤防を造ろうとしたのか。
4	なぜ，大地震がおきて村にもお金がないのにやめなかったのか。
5	堤防建設はなんとしても完成させようとしたのか。
6	どうして百年後まで村を守れる大堤防を作ったのか。
7	なぜうまくいくか分からない堤防造りにそんな大金を出したのか？
8	江戸の店がつぶれてまで堤防を完成させると決めたのか。
9	なぜ，儀兵衛は自分のお金を出してまで村を救おうとしたのか。
10	なぜ堤防のお金を自分で出そうとかんがえたのだろう。また，これから先のことを自分は死んでるかもしれないのに堤防作りを考えたのだろう。
11	儀兵衛の「百年後―」の言葉にはどのような効果があり，村人にどのような心情の変化があったのだろうか。
12	なぜ儀兵衛は村をすてずに，堤防を作ったりお金を人に出したりして村を守りたかったのか。
13	なぜ自分のお金を出してまで村を救おうとしたのだろうか。
14	なぜ浜口さんみたいに政府や自治体による公助も加わり，協同作業が進められているのか。
15	二番波などもあり自分もこわかったはずなのに、村中のために行動したのはどうしてか。
16	どうして儀兵衛は「百年先」まで安心できる堤防をつくろうと決めたのか。
17	儀兵衛はなぜ村人自らの手で堤防を作ろうと決めたのだろう。
18	儀兵衛の思いや熱意は，どのようにして村人の子孫に受けつがれていったのか。
19	儀兵衛は村人にとって最初から最後までどのうな人物になったか。
20	儀兵衛が決断をせまられたが，その心がなかなか決まらなかったのはなぜ？
21	人々の賃金も材料費もすべて自分が出すといったのか。
22	どうして儀兵衛は自分をぎせいにしてまで村人を助けようとしたのか。
23	番頭に言われても，堤防建設をあきらめなかったのは，なぜか。
24	浜口儀兵衛はなぜ自分の命や店より村や村人を大切にしたか。
25	もし私が儀兵衛だったら，自分の美しい未来か村の美しい未来，どちらを選んでいたか。
26	なぜ儀兵衛は体をけずってでも，町の人を守ろうと思ったのか。
27	どうして儀兵衛は自分の全てをついやしたのか。
28	儀兵衛は自分を犠牲にしてまで，村を守ったのはどうしてか。
29	どうして儀兵衛はそんなに自分よりも村や村人につくせるのだろうか。
30	なぜ村をすてずに堤防を作って守ったのか。
31	どうして村人を守ろうとしたのか。
32	なぜ儀兵衛は百年後，大津波が来ても村を守りたかったのだろう？

（図５　「私の問い」一覧①）

投げかけた。

7）問いの更新

まず，もう一度「問いの一覧」と「学習課題」を見比べ，グループでその改善点を話し合った。

あるグループでは，このような次のような学びの姿があった。

A児「ぼくは，アインシュタインと対談するときに，アインシュタインの『想像力』を引き出したいねんけど。」
B児「アインシュタインの何がすごいん？」
A児「アインシュタインって自分の頭の中で実験してみるんやって！すごいやろ？」
C児「えっ！そんなんできひん。すごすぎるやん。」
A児「せやろ。でもぼくも図工とかで，一回やり始めてたら止まらへんし，ちょっと似てるわ。アインシュタインと似てて天才かもな。」
B児「いやいや。それは言い過ぎ。」
C児「じゃあ，それを問いにしたらいいんちゃう。自分の生き方や考え方と関わらせてるやん。」

そして，A児は「自分の一度始めたら完成するまで止まらないという性格は，アインシュタインさんのどのようなエピソードとつなげればいいか。」という新たな問いを立てることになった。A児は，どのような学習課題にも主体的にそして粘り強く取り組む力がある。学習課題に立ち返ったC児は，着実に物事に取り組む丁寧さがある。それぞれの個性をもって対話をし，一人ひとりの問いを見出していく過程が共に学び合う良さだと，このグループの話し合う様子を観察していて改めて感じた。

一方，最後まで問いを立てられない子どももいた。その子には，次のように尋ねた。

T　「Dさんは，西郷さんのどこが好きになったん？」
E児「・・・。統率力かな。」
T　「それは，どんなエピソードから分かるの。」
E児「(伝記のページをパラパラとめくりながら）ここのところ。」
T　「ほんまやな。西郷さんの統率力が表れてるな。いいところに気が付いたね。Eさんも，みんなのことこうやってまとめるられそう？クラスの中で考えてみたら・・どう？」
E児「わたしはそういうの苦手やから。だからすごいなって思うねん。」
T　「それを，対談で表せられたらいいね。じゃあ，それを問いにしてごらん。」

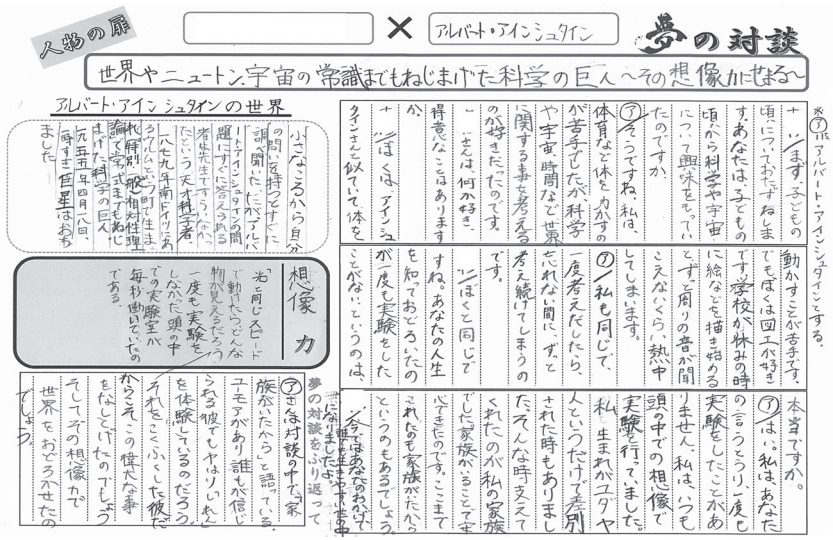
E児は読書が大好きな子である。しかし，こうして何か目的をもって，考えながら本を読むことをする経験が乏しかったのかもしれない。この対話の中では，E児は，新たに獲得した「統率力」という語彙が一つのきっかけとなっていた。語彙の学習を意図的に位置付けていた効果が，ここに表れていた。そしてE児は「私は，西郷さんのように人をまとめることは苦手だ。私にはない西郷さんのもつ統率力を表すには対談の中でどのようなエピソードを引き出せばよいか。」という問いを立てることになった。

そうして，一人ひとりが学習課題を達成するための手立てとなる問いを更新していった。(図6)

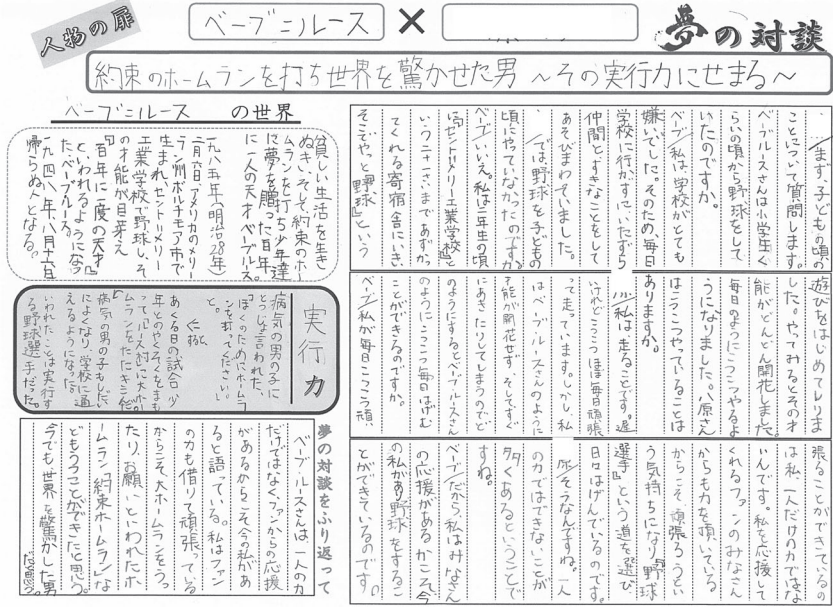
人物の扉～あの人と夢の対談～ 私の問い一覧②更新後	
1	リンカーンさんのように勉学や人の事情に興味がない私でも，興味がわき真剣になれる秘訣が分かるエピソードは何か。
2	私はディズニーさんのようにたくさんのかべを乗り越えていく力はない，けれど，ディズニーさんのようにアイディアがたくさんうかぶ，この私の性格を引き出すエピソードは何だろうか。
3	板垣さんの推進力について深く知るには，どのような質問・対談をすればいいか。
4	宮本さんの数々の功績を表すには，どのような対談にするとよいか。
5	なぜ，スティーブ・ジョブズさんはぼくから見通してしまうような見えない所にこだわりを持ち一切妥協しなかったのか。その生き方を引き出すにはどのような対談記事を作ればいいのか。
6	ぼくは，一つの意見をつらぬき通す勇気や粘り強さはない，コロンブスさんの何度反対されても意見をつらぬき通す勇気や粘り強さがある性格はどのエピソードから引き出されるか。
7	私はあまっぽい性格で宮沢さんのようなことはできないが，すぐに前向きになれる。その私の生き方を引き出す宮沢さんのエピソードは何か。
8	ヘレン・ケラーさんのような継続力はどこからくるのか，自分とかかわらせながらどのような対談をしたらいいのか。
9	ベートーベンのようにあきらめずに曲を作り続け，表現するようなことは私にはできない，どうして，あきらめずに曲を作りつづけ，表現しようと思ったのか。それを引き出すためにはどのような対談をすると良いか。
10	ディズニーさんの色々なことを変える行動力は私にはない，その力を対談の中でどうように伝えればいいか。
11	自分の一度始めたら完成するまで止まらないという性格は，アインシュタインさんのどのようなエピソードとつなげればいいか。
12	エジソンの発想力を引き出すには，自分の性格とどのようにつなげて対談すればいいか。
13	豊臣秀吉は「天下統一」という決断を下したが，その決断力はどのエピソードに表れているか。
14	田中正造さんは，どうして公害とたたかうのに自分をすてて正義をつらぬく鉄のような人になれたのか。
15	私なら,看護師になることを反対されたらあきらめてしまう。反対されてもあきらめないナイチンゲールの力はどのようなエピソードを通して生まれたのか。
16	どうして論吉さんはそんなに行動する力があるのか，それにせまる対談記事にするにはどうすればいいか。
17	ぼくは七十歳になったら果でおだやかな生活をおくるだろうけど，エジソンさんは八十歳になっても発明を続けた理由を引き出すにはどのような対談をすればいいだろう。
18	アンネさんのような前向きで明るい生き方と，自分の考えや生き方を聞わらせるにはどのような対談にすればよいか。
19	なぜ，ノーベルさんは苦しいこともあったのに研究をやめなかったのか。そのえピソードを引き出すためには，対談でどのような質問をすればいいか。
20	野口さんの集中力にせまるためにはどのような対談記事を書けばよいか。
21	すぐにあきらめてしまう私の性格はモーツァルトさんのどのような生き方と比べて引き出せばよいか。
22	私だったら治しにくい病気の人がなかなか病院にこなかったらしようがないと思いあきらめるけど，マザーテレサは何としてでも患者さんに病院にきてもらおうと思ったその理由を引き出すエピソードは何か。
23	坂本竜馬の何にでも本気で取り組む生き様と，自分のバスケットボールに本気になっている事を，対談の中でどのように表せばいいか。
24	ぼくは文章を書くことが好きだ。ケネディさんも文章が政治家なのに得意だったということを引き出すには，どのような対談にすればいいか。
25	ディズニーさんの失敗をおそれない力はいったいどういった事があって見出されたのか。また，私はディズニーさんのようにおそれずに挑戦するためにはどうすればいいか。
26	私は，アンネ＝フランクのように，自分を支えながら他人をも支える強さはない，その力をどのようなエピソードで引き出せばよいか。
27	何を竜馬さんにたずねれば，竜馬さんと自分の人生を重ねて竜馬さんと比べたばくの生き方の問題を見出せるか。
28	磯田信長はなぜ，ぼくのように新しいことをするのにおどおどしないですぐに実行できるのか。またそれは，どのようなエピソードから引き出せるのか。
29	私は，西郷さんのように人をまとめることは苦手だ。私にはない，西郷さんの統率力を表すには対談の中でどのようなエピソードを引き出せばよいか。
30	ベーブ・ルースさんみたいに野球だけを熱心にするということは私にはできない。私の性格とベーブ＝ルースさんのその生き方を引き出すにはどうすればいいか。
31	ぼくはあまり精神が強くない，真田幸村はなぜこのような強い心がもてるのか。
32	ライト兄弟の創造力がとても好きになった。それを対談で表すにはどのようエピソードを引き出せばいいか。

(図6　私の問い一覧②)

8)『人物の扉』の完成



（図７　A児　人物の扉）



（図８　F児　人物の扉）

対談記事を作成し始めると，子どもたちは黙々と描き進めた。辞書や類語辞典を手に取ったり，手引きを何度も見直したり，時に友達と読み合い，「私の問い」を解決しようと粘り強く表現していく姿をみることができた。

アインシュタインとの対談記事を書いたA児は，問いを解決しながら作り上げることができていた。（図7）

F児は，学校のクラブ活動であるランニング部に入部し，春からコツコツと走り続けている。しかし，なかなかタイムが伸びずに後ろ向きになることもある。その自分と重ね合わせ，「**ベーブ＝ルースさんみたいに野球だけを熱心にするということは私にはできない。私の性格とベーブ＝ルースさんのその生き方を引き出すにはどうすればいいか。**」という問いを立てた。

ベーブルースの生き方から，「一人の力ではできない」ということを見出し，問いを解決している。（図8）

3. 成果　振り返りの記述より

ふり返りの記述の中には，「評価表」を意識して書かれたものが多く見られた。読書の価値観が変化したり，広く汎用的な力を見出す記述も見られた。そこに、「問い」を立てて学習を進めていくことの効果を感じた。

また，ずっと「私の問い」が更新できずに悩んでいたE児は次のように振り返っていた。（図9）言葉数の少ない記述ではあるが，何よりも嬉しい振り返りだった。E児が学習の中で自らの読書を振り返り，そして新たな気づきをもっている。E児に芽生えた「自己調整力」である。悩みながらも粘り強く学びに向かった成果がここにも見えてくる。

4. 課題

・単元の中でいきる「問い」

今回の実践では，指導者自身も悩みながらの学習であった。教材の中に閉じ込められた「問い」ではなく，単元の中でいきる「問い」を当初からもたせられるような手立てと見通しがあれば，子どもたちの学びもさらに深まっていったように思う。問いの更新で現れたような「自己の



（図９　E児の振り返り）

形成に関わる問い」を持たせることができたのなら，「解釈に関わる問い」や「内容に関わる問い」をも切実感を持って解決することができるだろう。

・「問い」を立てるタイミング

これまでの実践の中で「問い」は単元の初めの段階で立てさせなければならないと，考えていた。そうすることで単元を通して「問い」がいきてくると考えていたからだ。しかし，もっと柔軟に考え，学習課題や教材の特質，子どもの発達段階によって，単元の中の「いつ」問いを立てることが効果的か，ということをより意図的に考えていく必要がある。今回の実践を改善するなら，問いを立てることは，単元の後半であってもよかった。『百年後のふるさとと守る』を読み，自己と関わらせながら読むことの魅力を発見させ，そうして，「人物の扉」を作る前に，問いを立てる。そのような学習計画が，より子どもたちの思考に自然と寄り添っていくと考える。

・他教科でも「問い」をもたせる

「問い」をもちながら学び行くことは，他教科であっても実践が可能であると考える。教科の特質によって，「問い」の質は変わってくるが，子どもたちが主体的に粘り強く学びに向かう力を付けていくには，非常に効果的な方法だと考える。また，教師も子どもたち一人ひとりの学びゆく姿を見とることができ，さらに個別の手立ても明確になる。

今後も指導者自身が切実な「問い」をもちながら単元を創造してくことが，子どもたちの本気で学びに浸る原動力を生むことを再認識した実践となった。

（本学附属京都小中学校教諭）

〈注〉

［1］小西かおり京都教育大学附属京都小中学校教諭との単元計画構想時の協議によるもの。

〈参考文献〉

・河合晋司（2019）「子どもたちが大切な言葉を意識して，主体的に読書する姿を目指して-『一つの花』（光村図書　四年上）の実践 - 」『月刊国語教育研究』日本国語教育学会，No.563 pp50-55
・河合晋司（2019）「子どもが主体的に作品に読み浸る，国語科授業実践」『教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要第 1 号』pp111-119
・達富洋二（2018），問いを立てることからはじめる単元の創造－国語教室の創造／形式のコピーから意味の創造へ－，『佐賀大国語教育』第 2 号，佐賀大学国語教育学会
・達富洋二（2017），よみなずむ子どもが動き出す読みがいのある単元の創造―国語教室の創造／子どもが自ら問いをもつこと―，『佐賀大国語教育』第 1 号，佐賀大学国語教育学会
・藤田智之，河合晋司，小西かおり（2017）「教科書教材を活用した小学校国語科単元学習の実践研究」『京都教育大学国文学会誌 45 号』pp51-64
・森山卓郎編著（2016）『コンパクトに書く授業モデル』明治図書
・森山卓郎・達富洋二・水戸部修治・樺山敏郎編（2011）「国語授業の新常識『読むこと』」明治図書
・日本国語教育学会編（1992）『国語単元学習の新展開Ⅱ　小学校低学年編』東洋館
・日本国語教育学会編（1992）『国語単元学習の新展開Ⅲ　小学校中学年編』東洋館
・日本国語教育学会編（1992）『国語単元学習の新展開Ⅳ　小学校高学年編』東洋館
・青木幹勇（1976）『問題をもちながら読む』明治図書
本稿は，（1989）『青木幹勇授業技術集成 1　問題をもちながら読む』明治図書に拠った。
・青木幹勇（1976）『書きながら読む』明治図書
本稿は，（1989）『青木幹勇授業技術集成 2　書きながら読む』明治図書に拠った。
・青木幹勇（1989）『話し言葉・作文』 明治図書
・大村はま（1983）『大村はまの国語教室』小学館

・大村はま（1982）『大村はま国語教室 1 国語単元学習の生成と深化』筑摩書房

（付記）
本研究は，2019 年度教育研究改革・改善プロジェクト経費「『主体的・対話的で深い学び』を実現する国語単元学習構築のための手引書の開発」（No.1-28）の研究助成を受けた研究成果の一部である。